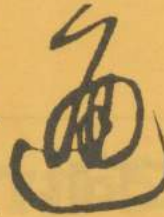




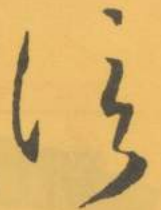
Kyoto Seika University was founded in 1968. It started out with high ideals that broke the mold of old Japanese universities. Kyoto Seika University is the place where teachers, students and all others are respected as human beings, and where the spirit of freedom and autonomy prevail. Although it is a small university, it is known for producing graduates who are unique and independent. From now on, in order to improve and develop this university, we



will continue to believe in these ideals. Kyoto Seika University consists of two faculties: Humanities and Art. The Faculty of Humanities uses educational philosophy of experiential, intercultural, and interdisciplinary approach to study broadly various peoples and cultures. The main purpose is to gain a deep understanding of living people's societies and cultures as a whole. The faculty of Art not only teaches skills and techniques but also cultivates insight into



Humanity. While considering the basic question of what is Art to Humans, we search for true art expression. Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community. This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on campus event, personnel changes and student news.



KINO PRESS KYOTO SEIKA UNIVERSITY NO.30

木野通信 第30号 1998年12月20日発行
京都精華大学情報館文化情報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5343

真価の間われる淘汰の時代

学長
中尾ハジメ NAKAO Hajime

日本の18歳人口の減少はもう20年以上まえからわかっていたことですが、いよいよ大学の経営にとって、たいへん大きな断崖絶壁のように、ありありと眼前に立ちはだかる現実問題となってきました。そして、京都精華大学が「自由自治」「国際主義」「人間形成」などの理念をかかげながらめざしてきたことの真価が問われるのは、ほかでもない、日本の大学一般にこのような困難が現実のものとして押しよせはじめた今日この時期であるように思えます。

この秋に行われた京都精華大学創立30周年記念のさまざまな催しは、期せずして、このことを考えるよい機会となりました。

振りかえてみればこの30年のあいだ京都精華大学は、少なくとも、一方で大学の権威を笠にきて、他方で横並びの大学像に安住しようとしたことは一度もありませんでした。このことは、あるときは「反アカデミズム」や「ユニーク」という言葉で表現されたことがあります、その内容はさまざまに誤解されたふしがあります。ときには努力からの逃避を正当化したり、たんに奇抜であることだと勘ちがいのしたむきもありました。しかし、30年を経てなお京都精華大学が、ますます多くの人びとから支持を受けているのは、まちがいなくこのことによるのだと思います。つまり、自由と親愛の空気が維持されているからであり、そのなかでこそ創造的な芸術と学問が可能であることを知る人びとが少なからずいるからにちがいないのです。

いわゆる偏差値一辺倒の序列のなかに従順に位置づけられ、それによって自らを評価するという愚もおかずにすんだと思います。偏差値の物差しを振りはらう具体的な方策が入学試験の段階で十分にできたわけではありませんが、私たちは入学してきた学生と向かいあったのであって、その偏差値を云々したりはしませんでした。もとより、偏差値の高さが直ちに問題意識の高さを表すはずはなく、感受性の高さを表すはずもありません。ものを考えようとする、表現しようとする人間がいることが、大学のような場の第一条件だということを多くの教職員が忘れずにすんだことは幸運でした。

もし、この気風がもたら一部の少数派の意識することでしかなかったのなら、そしてまた、このような価値を信じる大学の存在を、広く伝えようという現実的方策がとられなかったとしたら、この大学はすでに消えてなくなっている、あるいは抜け殻だけになっていてもまったく不思議はありません。いよいよ現実となった受験生人口減少による大学淘汰を目前

にして問われる私たちの大学の真価とは、このあたりのことにちがいないとますます思えてなりません。横並びの空疎な権威に安住する道は、もう完全に視界から消えています。もちろん京都精華大学ははじめからその道を選んでこなかったのですが、生き残るに値するその内面的な価値をさらに実現し維持するために、いままでにもまして教学の運営にも経営にも、そのリアリズムに磨きをかけなければならないでしょう。



Forward a new leap 新しい飛躍に向けて新学科設置を構想

京都精華大学が21世紀に向けて新しい飛躍を遂げる。2000年からの「マンガ学科」と「環境社会学科」の設置を準備。新しい時代の新しい大学へと大きく成長する。

両学部の新学科

京都精華大学では2000年をめざして、美術学部と人文学部それぞれに、新しい学科を設けることを計画している。

美術学部は、これまでデザイン学科のなかにあったマンガ分野をさらに充実させ「マンガ学科」とする構想。マンガ分野は当初から日本で唯一だったが、これまではカトゥーン中心に展開してきた。そこにストーリー・マンガを大きく取り入れ、複合的かつ総合的なメディア芸術としてのマンガの教育・研究体制を準備しようというのだ。

人文学部は、現在、人文学科だけの一学科構成だが、そこに「環境社会学科」を加え、二学科とする計画。人文学部ではこれまでも環境問題の重要性を意識して、さまざまな科目を置いてきた。

いよいよ現実の社会的課題として大学における教育・研究が強く求められるようになったことに対応し、環境問題の根幹にある人間社会・人間文化に焦点をあてる学科を構想したのだ。

新学科のもつ意味

「マンガ学科」は、設置認可がおりれば、もちろん日本ではじめての学科になる。また環境問題を取りあげ教育・研究の対象とする学部や学科は最近多く設置されるようになったが、「環境社会学科」というのはまだない。人文学部に設置するというのも特徴的だ。設置が認められれば、これも大きな反響を呼ぶことになると思われる。

京都精華大学はこれまでも、大学での教育・研究のあり方に新しい提言をしつづけてきたということが出来る。京

都の地域性を活かした美術学部の学外実習の制度は、今日のようにインターンシップの意義が語られるようになるずっと以前から実施されてきた。学際性を主張する人文学部の長期フィールドワークも同様。どちらの学部でも行われている、海外の大学との交流・交換の提携も、実質的で毎年着実に成果をあげつつある。今回のいずれの新学科の計画も、日本の大学のなかに新しい風を吹き込むことになるにちがいないだろう。

留学生・社会人も視野に

とりわけ特徴的なことのひとつは、どちらの学科とも、これまで以上に多くの海外からの留学生を迎え入れるということ。日本のマンガ文化は国際的な注目をあつめており、環境問題もきわめて国際的に重要課題として認識されて

いる。マンガ学科では学生5人に1人が、環境社会学科では7人に1人が留学生となり、建学の理念のひとつであった「国際主義」の実現にむかって大きく前進しようという計画だ。また社会人学生にもさらに多くの機会を提供できるように、できるかぎりの条件整備をすすめている。5,6年後には、新しい学科だけではなく既設の学科もふくめて大学全体では12人に1人を留学生、社会人学生などが占めることになり、大学本来の多様性が実現することが期待される。

こういった大きな変化にそなえて、すでに担当部署がその準備に全力をあげている。年が明けて来春には、新学科設置認可の申請を行う予定になっている。

環境社会学科

○学科の考え方

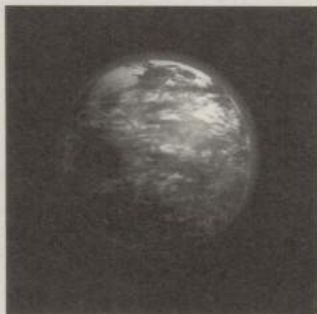
今日、環境問題はとても重要で、緊急に対策を講じなければならぬ人類の課題である。日本は、国内社会はもとより海外の社会との関係でも、地球規模の大きな責任を負っている。この問題への対応は、科学技術によるだけでは不十分で、市民が具体的な行動計画をたて、さまざまなレベルで実践的に取り組まなくてはならない。また、地域社会においても次の世代に対しても環境問題への意識を醸成することが求められている。この時代的要請に応えて、地球的環境問題を文化や社会の問題として理解し、地域社会における取り組みに実践的に貢献できる人材を育成しようとするものだ。

○教育・研究の目標

社会および文化を理解・探求するための基礎技能を重視し、また環境問題の文化的社会的側面を総合的にとらえる学際的な科目が多数配置される。さらに、実践的領域にかかわる知識・技能の習得を重視するとともに、国内・外での長期フィールドワークを大胆に取り入れ、体験主義・国際主義を活かす現場学習が重視される。

○コース構成

1. 環境社会コース
2. 環境マネジメントコース
3. 環境文化コース



マンガ学科

○学科の考え方

今やマンガは日本で特に発展した文化として世界に認められており、すでに確立された他の芸術分野にも大きな影響力を持ち、文化・社会全体の発展に大きな役割を果たしている。全出版物の半数近くを占めるなど、経済社会的な役割も大きく、「マンガ」は国際的な共通語にもなっている。マンガが、他のあらゆる芸術や文化からますます多くを吸収し、その独自の価値をさらに発展・維持するよう、今こそ大学における教育・研究のテーマとして要請されている。

○教育・研究の目標

基礎的な描画技法はもちろん、マンガ創作の源となる様々な文化現象や社会構造を幅広く学ぶ。そこで得たものの見方・考え方の広がり制作に生かすことができるよう、コンテンツ(内容)と技術・技巧をつなぐダイナミックな教育・研究を目標とする。またコンピュータ・グラフィックスを用いたマンガ制作や、制作現場での実務研修も視野に入れた実践的教育を行う。マンガを社会性の強い独自のメディア芸術の領域としてとらえ、ユーモアを含む批評精神や、幅広い知識に支えられた芸術精神を育てることを基本方針とする。

○コース構成

1. カトゥーン・コース
2. ストーリー・マンガ・コース



VCDの再編も検討

かねてより懸案であったデザイン学科VCD分野の再編計画が検討されている。

21世紀を目前に、情報・テクノロジーの高度化や社会情勢の多様化により当分野の教育的守備範囲はますます広がりがつつあり、これに対応する教育システムの更なる変革が急務となっていた。歴史的に本学VCD分野は、ビジュアル(視覚伝達)デザインを基盤に、一つはプロダクト(製品デザイン)系、また一方は映像系というように各々に固有の裾野を内包する領域を増殖させてきた。これは社会のニーズや学生の志向変化から言って当然の動向であった。しかし各領域の専門性が高まるにつれて本体の中心核の位置付けが曖昧になる事態を生みだしたとも言える。従って再編課題は、従来のVCDを来るべき21世紀社会の重要なテーマである「コミュニケーション」デザインと位置づけ、ビジュアル系とプロダクト系を両軸に、生き生きとした人間環境を提案できるデザイン教育を実現することであり、他方、メディア社会に対応する映像系を分野として特化させ、その専門性を明確化することである。

30th anniversary 30周年事業 盛大におこなわれる

今年30周年を迎えた京都精華大学。連日さまざまな催しが行われ、学外にもその存在を大きくアピールした。記念イベントには、一般市民はもちろん、卒業生、旧教職員らも多数参加。精華の歴史を振り返るとともに、そのつちかかってきたものの豊かさに触れた。京都精華大学は、一連の記念イベントをきっかけに、30年の歴史と交わり、また新たなスタートに踏み出した。



「精華人の集い」日本全国から、約1000人が集結

30周年記念のメインイベント「精華人の集い」。参加者は約1000人に上り、学内はその熱気につつまれた。

10月10日、午前10時30分。晴天に恵まれ、大同窓会の幕があいた。これまでにも同窓会は幾度となく開かれ



てきたが、今回のような大規模な試みは初めて。在校生、卒業生など日本全国から集まり、合わせて参加者は約1000人を数えた。30周年ということもあり、岡山からバスを一台貸し切り、団体で参加した卒業生グループもあった。「精華人の集い」は単なる同窓会ではなく、在校生と卒業生の交流、また卒業生同士がこれをきっかけに精華人として接点を持ち、交流を深めていこうという主旨を持っている。午前中は「キャリアガイダンス」と題し、精華大の

卒業生として社会で活躍する先輩が、在校生へ向けて、経験談や就職に関する社会の現状などを話すセミナーが行われた。

午後1時からの記念式典では、京都精華大学の30年の歴史を振り返り、情報館前広場に設置された16面マルチビジョンカーで、数々の懐かしい場面をとらえた映像をながした。マルチビジョンでは当日出席できなかった卒業生のビデオレターも紹介された。中尾ハジメ学長、韓国同窓会長らの

挨拶を終え、卒業生による和太鼓、ゴスペルの公演。そして2時からいよいよ大懇親会が始まった。卒業生、在校生、新旧教職員が一堂に会し、懇親会は日が暮れた午後6時頃まで続いた。また、30周年記念を祝したラベルが貼られた、京都精華大学特製日本酒も販売され、好評を呼んだ。今回の催しをきっかけに在校生と卒業生、また卒業生同士が交流を深め、精華人としての活動がさらに活発になることが期待される。

大反響を呼んだ、棟方志功肉筆画展

22日間にわたり行われた肉筆画展。2万人を超える来場者を数え、大反響を呼んだ。

10月18日から11月8日まで京都精華大学ギャラリーフールドにて行われた棟方志功肉筆画展は、2万人の入場者を数え、盛況のうちに幕を閉じた。その模様は、朝日新聞全国版をはじめ、様々なメディアで大きくとりあげられ

た。11月2日に明窓館アートホールで行われた、中原佑介、笠原芳光、高坂制立の3氏による記念シンポジウムは、NHKの「ラジオ深夜便」で放送された。注目を集めた未公開挿絵は芸術新潮12月号にも掲載された。

また、来館者への図録の販売部数は900部に上り、今も購入を希望する声が強いため、全国書店で一般販売されることになった。(発売:青幻舎) 展示を終えてからもなお、肉筆画展の反響はつづいている。



ノーム・チョムスキーが記念講演

社会での大学の役割について、生成文法理論で知られるノーム・チョムスキー教授が語った。

30周年記念イベントの一環として11月14日、明窓館201号教室にてマサチューセッツ工科大学のノーム・チョムスキー教授の講演会が、600人の観客を集めて行われた。チョムスキー教授は言語学者として

広く世界に知られるとともに、社会的発言が常に注目を集める存在とあって、外国人の聴衆も多く見受けられた。テーマは「大学の役割」。講演の中で、チョムスキー教授は、「健康な社会での大学という存在は、

既存の権力に従うイデオロギー注入の場ではなく、何物にもとらわれず、自由に考えることのできる場所であり、新しい発想の源でなくてはならない」と語り、京都精華大学の未来像にも重要な示唆を与えた。



the other も にぎやかに

メインイベントである「精華人の集い」に先立つ一週間、10月4日から10月10日まで、連日イベントが展開された。明窓館アートホールでは、留学生や卒業生の協力を得て企画された精華大らしいイベントが多く催された。日本では観る機会の少ないモンゴ

ルのホーメイ、馬頭琴と踊りは、人文学部卒業生であるスーチンドロンさんが架け橋となり実現した。スーチンドロンさんは、自らも屋台を出し、モンゴル料理をふるまった。インドネシア舞踊に、ジャズコンサート、宮崎「突破者」学氏と学生との熱い対論に、元天井棧敷の昭和精吾

明窓館アートホールと特設ステージでもイベント。一週間にわたって学内をにぎわせた。

氏によるパフォーマンスと、連日多彩なイベントが繰り広げられ、学外からも多くの参加者があった。また黎明館前に設けられた特設大ステージは、学生を中心にしたプログラム。演劇部、フォークソング部、ジャズダンス部、軽音楽部による公演が学内を盛り上げた。学外からのゲス

ト、モンキーパンチ氏の講演は雨の中、200人を超える観客を集め、即興でルパン三世の絵を描くパフォーマンスが会場を沸かせた。最終日、トリを飾ったのは憂歌団のライブ。憂歌団のファンはもちろん、学生も多くつめかけ、特設ステージは熱気につつまれて幕を閉じた。

環境国際規格取得プログラムいよいよ始動

環境問題は今や地球全体のテーマとなった。その環境問題を継続的に改善していくシステムを国際標準規格化したものが、ISO14001である。京都精華大学では関西の大学として初めて、ISO14001取得に名乗りをあげた。2000年の取得を目指し、今まさにそのプロジェクトが具体的に動きだしている。

ISO14001で京都精華大学が変わる

ISOの導入による効果で、京都精華大学はいままでの特色に加えてさらに魅力ある教育機関となることが想定される。例えば、学内そのものをフィールドワークの場所にできることや、環境資格に結び付く教育制度の充実、企業・地域への貢献などその効果は幅広い。ISO14001取得キャンパスは単なる教育現場としてだけでなく、社会とのつながりを深め、大学としての役割を高める意味もある。

学内で環境フィールドワーク

京都精華大学の大きな特色の一つにフィールドワークがある。多くの学生がフィールドワークに参加しているが、ISO14001を取得することで、京都精華大学のキャンパスそのものを研究フィールドにすることができる。

環境マネジメントシステムの導入は、実際に自分が生活する大学をフィールドとし、大学の中でそのシステムが稼働していくため、実体験に基づいた環境に対する学習が可能となる。つまり、学校にいながらにしてフィールドワークが可能なのだ。ゴミの分別や、省エネなどの環境改善計画を実施し、結果をデータ化することで、生きた情報をもとに学習していくことができる。学生、教員、職員の協力のもとに、大学を対象とした調査と行動を通じて、体験的な学習を試みる事が可能になる。

また、将来的に研修プログラムを実施することになれば、ISO14001取得キャンパスで、ISO14001の審査員資格取得のためのポイントを獲得する学習も大学内で可能になる。

ISO14001取得キャンパスになれば、本学の学生だけでなく、他大学の学生もフィールドワークのために訪れる場所となり、外部との交流が一層活発になることが期待される。

またISO14001取得キャンパスでは、環境問題とアートの結合という成果も生まれるだろう。

環境資格取得へむけて

不況による就職難のなかでも、環境に対する専門知識をもった人材は幅広い分野で多く求められている。

環境庁は1996年7月、環境カウンセラー登録制度を実施することを発表している。環境カウンセラーとは、環境保全に関する活動を行おうとしている者に対して、自らの知識や経験を活かして適切な助言をする人を指す。このシステムはすでに動き始めており、来春からカウンセラーの活動が始まる。

「環境社会学科」設置と同時にISO14001の認定を得ることができれば、環境カウンセラーの登録に有利となる。またISO14001認定の審査を行う、審査員、審査員補などの資格取得に向

継続的改善
環境マネジメントシステム(EMS)規格 ISO14001

Start
環境方針
環境活動への方向づけ

見直し・改善
変化に対応した適合性と有効性

点検・是正処置
ESM監査
●実施維持の審査 ●監視
●測定 ●更正 ●予防処置

計画
目的・目標プログラム
●実施にあたっての影響と計画
●法のおよびその他の事項の要求事項の把握

実施・運用
体制、責任
●教育訓練 ●自覚と能力
●文書管理・運用管理

けた研修プログラムの実施も可能になる。環境アドバイザーは今後、企業や自治体などの組織になくてはならない、ニーズの高い存在になることが予想される。ISO14001を取得したキャンパスで環境問題を学ぶことにより、環境カウンセラーや審査員などへの道も開かれていく。

環境ネットワークに参画できる

環境問題への取り組みは、企業や行政など社会を構成する各主体にとって、今や避けて通ることのできない課題である。その必要性は今後さらに高まるものと予想される。しかし、実際の活動と結びついたシステムとして稼働している例はまだ少ないのが現状である。そのような状況の中で、環境問題に対する関心を自主的、主体的な取り組みに結び付け、さらにすでに実施している団体については、その活動をより一層促進させるために、適切な助言を行うことのできる機関、人材が求められている。

精華大学が認定を受ければ、取得を目指す企業や自治体とISOを通じて交流することができる。また特定の組織にかぎらず、地域の環境保全のために、率先して改善へ向けて指導をしていくことができる。

ISO14001導入により、京都精華大学が大学、企業、NGO、行政の連携する環境ヒューマンネットワークに参画していくことが期待される。

ひとりひとりが環境問題の主体に

ISO14001のシステムは、毎日の生活の中に組み込まれるものである。日本の大学で、いち早くISO14001を導入したキャンパスづくりを行っている武蔵工業大学環境情報学部では、7種類にも分けられる徹底したゴミ分別をはじめ、環境改善に関する興味深い試みを数多く実施している。

エコキャンパスは、大学に通うという普段の暮らしの中で、自然に環境に対する意識の向上と、環境改善へ向けて行動するという習慣が身に付く。大学の環境改善という身近な成果に取り組むことで、自らの行動が、環境問題という大きな問題につながっていることを認識することができる。全学のひとりひとりが環境問題の主体となる。



ISO14001 認証
タイムスケジュール

1999.1~3
基本準備、教育、啓蒙、実態把握

1999.4~6
予行審査準備、システム構築、方針、目標決定

1999.7~9
マニュアル作成、システム見直し、現場での運用開始

1999.10~11
内部監査による是正、初動審査による是正

1999.11~12
本審査、登録

「環境社会学科」設置準備へ

京都精華大学では2000年に「環境社会学科」を設置するため、現在準備をすすめている。ISO取得は2000年までに認定を予定しており、予定通り取得できればこの新しい学科の教育カリキュラムをさらに充実した内容にすることができる。大学内でのフィールドワークをはじめ、環境問題を専門に学べる設備を整えることになる。また、関西ではまだISO取得大学の例がなく、「人文社会学科」は国内はもちろん、海外からの留学生にも魅力あるコースになると期待される。

注目を集める「ISO14001」とは?

フィルムやネジなどの工業製品の国際標準規格について、環境に関する国際標準規格がこのほど完成した。ISO14001は環境マネジメントシステムの基準となる規格であり、自主的で継続的な環境改善を目的としている。



●ISOとは?●
ISOとは International Organization for Standardization(国際標準化機構)の略称。アイエスオー、またはイソと呼ばれている。1947年にロンドンで設立され、現在はスイスのジュネーブに本部を置いている。日本では、日本工業標準調査会(JISC)が1952年に加盟した。工業規格の国際的統一と調整の促進を目的とした国際機関であり、物資およびサービスの交流を容易にすることによって、知的活動や科学、技術、経済活動の分野での世界相互間の協力を発展させるため、工業製品の国際標準化、規格化を目的としている。当初は、フィルムやネジなどの商品の技術面での規格を行ってきたが、1994年に品質管理の規格ISO9000シリーズが完成、ついで1996年にISO14000シリーズ(環境管理システムに関する国際規格)が完成、発効した。

●環境規格14001●
今回、京都精華大学が取得へ向けて動いているのはISO14001。「環境マネジメントシステム」の基準となる規格である。企業や学校等の活動や製品、サービスが地球環境に与える負担を減らすために、環境対策の目標を定め、実行し、結果チェックするシステムを「環境マネジメントシステム(EMS:Environmental Management System)」と呼んでいる。「環境マネジメントシステム」の重要ポイントは、継続的な環境改善。自ら定めた目標にむかって環境改善に取り組んでいるかどうかを、



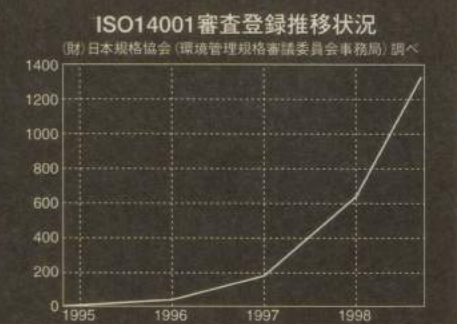
スイスジュネーブISO本部

環境監査などを通じてチェックが行われ、マニュアルの見直しと改善がなされる。これらを繰り返して組織が一体となり、環境改善の目標に向かって活動を続ける。

●組織改善にも寄与●
ISO14001には目標数値の指示や達成できなかったことに対するペナルティなどはない。あくまで規格であって強制するものではないからだ。しかし、日々の努力を怠り結果を出せなかった場合には認定を取り消されることになる。そのため、ISO14001を取得し、継続的に環境改善を目指していくためには学生、教職員を含めて大学に携わる者ひとりひとりの理解と行動が必要とされる。誰かの命令に従うのではなく、自主的に環境改善を実行に移していく力をもった組織を構成していかなければならない。ISO14001という環境問題改善のシステムを通して、組織の体質そのものが、いままで以上に、より能動的に働きかけるものに変化していくことが予想される。

ISO取得申請団体、1237件に

企業のISO導入は環境活動と同時に取引上での必要条件として関心を集め、1998年10月5日の時点でISO審査登録数は1237件にも上っている。現在、毎月60~70社もの企業がISO取得、または取得申請を行っており、その動きは地方自治体および、今年3月には新潟県上越市と千葉県白井町が認証を取得。最近では、武蔵工大環境情報学部が大学としては初めてISO14001の認証を取得し、エコキャンパスとして注目を集めている。



紹介 NPO 促進に取り組む 新田英理子さん

自律と協働と責任を持った社会を作るために。

「日本NPOセンターで働いています」という「それ何?」といわれる事がほとんどです。NPOはNon Profit Organizationの略。日本語では「民間非営利組織」と訳されます。いわゆる国際交流や環境保護などを、行政ではなく民間で、しかも営利を目的とせず活動している団体の事です。広義では、大学や病院も含まれます。私が働いている日本NPOセンターも名前の通り、NPOです。日本全国のNPOの基盤を強化するための様々なサービスを行なっている中間組織です。

私は、人文学部の一期生です。精華に来たからには、フィールドワークに行く決めていた私は、タイを選びました。研究のテーマは「タイのスラムと日本の関係」でした。スラムを訪ねているうちに民間の国際協力団体で働く日本人スタッフと出会う事ができました。日本人でタイのスラムに取り組んでいる

人がいるのだという事実私の進路を大きく変えました。それまでは、将来は行きたい会社に入れば良いと思っただけで、会社にも4年いましたが、それは今後の人生の訓練のためでした。

精華には高校時代まで出会った事のないような刺激的なひとりがたくさんいました。今までにない新しい考え方をどんどん吸収できたように思います。様々な新しい刺激的な考え方を取り入れる事は、現在の仕事で、柔軟かつ臨機応変に人に対応するという部分で役立っています。

かっこをつければ、今後、この時代の変化をしっかり捉え新しい市民社会を作りたい、と考えています。

時代は確実に変わっています。市民一人一人が自律と協働と責任を持って良い社会を作っていくために力になりたいと思います。



日本NPOセンター会員募集中
TEL:03-5459-8877
(新田英理子 89年度入学)

ジャズダンス部「チッパーズ」は、この夏、神戸で開催された全国高校大学ダンスフェスティバルに「起動〜地底に息づく〜」と題した、地の底に湧き起こるエネルギーの胎動をあらわした作品で参加。「優れた動きのテクニックに対する特別賞」を受賞した。

学生対象のダンスコンクールでは最高峰に位置づけられる同大会でも、この賞はベスト5入賞に相当するものだ。

これまでも同大会へ出場してきたが、昨年度はじめて予選を通過し、今年ついに受賞、と着実にステップアップしてきた。大会前は毎日、日常的にも週4日3〜5時間の練習を積み重ねてきた成果といえる。もちろん来年はもっと上位の賞を狙っている。

チッパーズといえば、学内では

学生活動紹介

チッパーズ



俳優と、江戸時代の俳優、歌舞伎役者を調べる人あり、代々の市川團十郎について調べる人、猫が好きなかわけ猫の説話、伝説を集めている人、絵師について探る人などなど、本当に多様なのだ。それら各自独特の日常的な興味味が、江戸時代というファクターを通すことによって、公共性を持ち、無限に広がっていくのだ。

堤先生は江戸時代についての生き字引のような人である。聞けば適切、豊富なアドバイスが怒涛のように返ってくる。その肩に揺れる長髪で、今日も髪をひき付け、私たちゼミ生をも引き寄せているのだ。

(95L17 池田宏子)

原田さんの思い出 片桐ユズル(人文学部教員)

原田弘さんにはじめて会ったのは、多分1974年だ。彼は甲南大学経済学部在学中に英語に興味を持ち、就職課程の実習で甲南中学高校に来ていたときに足立正治さんと出会った。足立さんは当時私といっしょに一般意味論や Graded Direct Method に興味していた。Graded Direct Method(いわゆる GDM)はペーシング・イングリッシュにもついていた英語教授法で、テキスト English Through Pictures はたいていのひとが、どこかで見覚えがあるだろう。彼はその後ひたつづき GDM の研究会にあらわれ、コネカットの一般意味論サマー・セミナーにまで足をのびた。

彼は言語それ自体を愛好したので、そのような存在は精華のなかで貴重であった。ペーシング・イングリッシュは単語を8〜10に制限したり、なにか主義だつたりするから、ことばに溺れたいひとたちからは嫌われているが、原田さんは面白がっていた。

1996年10月27日に精華でひらかれた日本ペーシング・イングリッシュ協会研究会のパネル・ディスカッションでの彼の話が最後だった。「幼児が単語を学習するときには、たとえば「スプーン」という前には、かならずしくさぎが先行する。つまり attached して

1 Topics 就職講座多様に展開

バブルの崩壊以降、企業が求めている人物像は大きく変わりつつある。

業績に直結する業務以外は正社員を配置しないという方針が徹底し、採用は即戦力に限るという傾向が強い。

新卒者についても同様で、応募者は仕事に直結する専門的知識・技術やプロ志向の強さを問われている。

こうした状況に対応するために就職課では下記の講座やセミナーを計画し、3年生以下の学生にも参加を呼びかけたいと計画している。

① 社会生活に必要な基礎的技術(読む・書く・計算・コミュニケーション)

② 学生の希望が多く、準備期間の必要な領域に関する講座/セミナー
・公務員講座
・マスコミ講座
・旅行セミナー
・福祉セミナー

このうち公務員・マスコミ・旅行・福祉講座、英検勉強会は本年度からスタートさせた。参加者の中からは出版社の内定を得た者や英検の合格者などを出し、成果を挙げている。

3 Topics 木野評論臨時増刊号好評発売中

昨年度末に発行した第29号から市販に踏み切り、順調な売れ行きをみせた「木野評論」が、この秋、臨時増刊号を刊行した。

今回の特集は「文学はなぜマンガに負けたか?」という刺激的なク

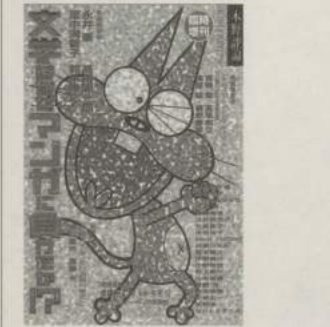
エイルのもと、マンガ表現の現状と可能性を論じたもの。

執筆陣の豪華さも注目を浴びている。

巻頭座談会は、永井豪氏、里中満智子氏の漫画家おふたりに、小説家の高橋源一郎氏、そして『木野評論』編集長で小説家でもある鈴木隆之先生(建築分野)が、「文学はなぜマンガに負けたか?」というテーマをめぐって討論。

宮崎駿氏、梅原猛氏、網野善彦氏、高坂制立氏に情報部長・牧野圭一先生(マンガ分野)を加えた特別座談会も話題を呼んだ。

牧美恵子、いがらしゆみこ、竹宮恵子、山本直樹氏も登場。前号を上回る出足を見せている。



2 Topics 中国短期フィールドワークはじまる

人文学部ではタイ、アメリカ、オーストラリアの3カ国で実施する長期の海外フィールドワークプログラムに加えて、休暇中に行なう短期プログラムを行っている。

昨年までイギリスとタイで実施し、好評を得ている。

本年度は新たに中国でのプログラムが加わった。

受け入れ大学は中国江蘇省南京市にある南京師範大学。

同大学は「東洋一美しいキャンパス」とうたわれ、海外大学の研修プログラムの受け入れを積極的にこなしていることでも知られる。

実施期間は1999年2月27日から3月13日の約2週間となる。

基本的に午前中を授業にあて、



午後フィールドトリップに出る。梅花山、靈谷寺、台城、玄武湖、南京大虐殺記念館、梅園新村、大統領府などを見学する予定だ。揚州や鎮江における水環境や生活環境の視察など、環境問題に関するフィールドトリップが盛り込まれているのも、中国プログラムの特長。

南京師範大学の日本語学科の学生との交流会も持つ。

4 Topics 開館1年を迎えた情報館

昨年9月16日にオープンした情報館が、この1年間の活動内容をまとめた(数字は1997年9月16日〜1998年9月14日のもの)。

273日の開館日に情報館を訪れた総入館者数は180,000人にもものほった。図書の出し出し冊数は約63,000冊で、これは旧図書館だった95年度からみればほぼ倍増。学外一般市民の利用登録者数も700人を超えている。

組織としての「情報館」には、建物としての情報館で利用される図書館部門、AVセンター部門のほかにも5つの部門があるが、これらにおいても順調な活動が展開されている。

やはり昨年10月にオープンしたギャラリーフロールは今年11月末まで

に、15回の展示会を開催。約44,000人の来場者を迎えている。

学内サーバーを立ち上げた情報処理部門では電子メールアドレスを配布し、教職員の7割、2年生以上の在学生の4割、98年度新入生では9割近くがアドレスを取得している。

生涯学習部門では、アセンブリー講演会で約1,600人、GARDENで500人の受講者を動員している。出版部門は木野評論29号で初の市販に踏み切り、3,000部の販売実績を得ており、研究所部門では5つのプロジェクトがスタート。

これらの数字はすべて、情報館への期待と関心の高さを示している。

今後は、新しい精華の顔として、さまざまな企画が進行中である。

6 Topics 韓国と台湾に同窓会

京都精華大学も創立30周年を迎え、留学生の卒業生も多くなってきた。

この秋、韓国と台湾で同窓会が設立され、発足式が行われた。

韓国の発足式がもたれたのは9月6日。大学からは、杉本修一専務理事、企画室の佐藤正幸さん、中平佳男、武田雄二、洪桐圭の各先生が、同窓会からは入江完さんが参加した。会長は、金琪祚さん(大邱大学校副教授陶芸科主任、82年度入学)がつとめている。

また、台湾では9月20日に行われた。大学からは、企画室の佐藤正幸さん、松谷昌順、新井清一、葉山勉、呉宏明の各先生、同窓会からは新谷一男さんが参加した。



5 Topics 「のぼりがま」が朽木に

美術学部の陶芸分野が、のぼりがま(登窯)をつくることを計画している。場所は朽木学舎に隣接する山で、1999年の夏には完成する予定となっている。

こののぼりがまは三井建設によって寄贈される。

現在の学内のかまに加えて、いつもの充実となる。

のぼりがまは鎌倉時代から伝わる焼き方。山などの傾斜面を利用してトンネル状のドームをつくり、斜面の下の方を焚口とすると、焚いた炎と熱が階段を上るように次第に各部屋を上昇しながら焼き上げるもの。

現在では、陶芸のかままで使う燃料としては電気やガスが使われるこ

とが多いが、薪で焼くのがのぼりがまの特徴である。灰がかかることで、予測できないような自然の窯変が期待できる。いわゆる「味のある」作品ができる。

現在でも、「火色」「ビードロ釉」「魚げ」といった美しい景色を醸し出す伝統の焼締のやきものは、のぼりがまで焼かれている。

予定されている京都精華大学ののぼりがまは3つの部屋(焼成室)からなる。焼成に、泊り込みで4日間くらいかかると思われる。

在学生の授業のための活用を中心にすすめるのはもちろんだが、将来的には、卒業生や社会人などにも利用対象を広げていくことも考えられている。

京都精華大学 30周年記念事業

「自由へのメッセージ」をインターネットで公開

30周年記念事業の一環として、インターネットで「自由へのメッセージ」が公開された。

この企画は、<自由>のために闘う人々に、<自由>の意味を問いかけるというもの。3人のノーベル平和賞受賞者に本学教職員で編成する特別取

材チームが独自にインタビューした。インターネットでは、文章だけでなく動画でも触れることができる。URLは「<http://www.kyoto-seika.ac.jp/freedom>」。同じ内容をまとめたパンフレットは500円(送料込実費、在学生無料)でお分けしている(問合せ:075-

702-5199)。

これまでも、これからも、真剣に「自由」に取り組み実践しようとする京都精華大学のマニフェストである。



Aung San Suu Kyi

アウンサンスーチー

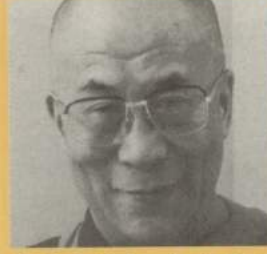
視野を広げ、同胞意識を持って全世界を受け入れること、他人の困難を感じとることのできる、より大きな心を持つことが大切だ。世界で起こる残虐行為や悲劇は、自己中心的考えと、人間の諸問題に対する理解力の欠乏が根源となっている。だから、若者が持つべき目標は広い心を獲得することだろう。



Jose Ramos Horta

ジョゼ・ラモス・ホルタ

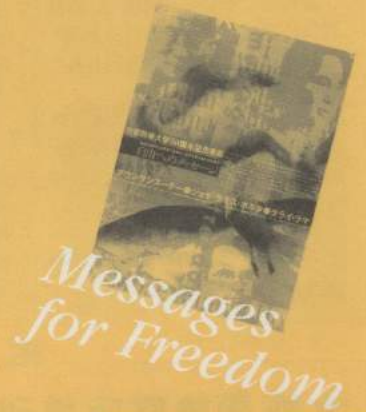
とにかく勉強をすること。貧困、独裁の犠牲者などに鈍感では、人生が空虚なものになり、仕事や利益のための単なる機械のような人間になってしまうだろう。だからとにかく勉強をすること。勉強、勉強、勉強。そして人間の尊厳への視点を失わないことだ。人間の尊厳への視点は人生を豊かなものにする。



Dalai Lama

ダライ・ラマ

壮大なことをする必要はない。それは時として大きすぎ、失敗の前触れとなる。最初は小さな規模からはじめ、他へ良い模範を示し、そうすることでより多くの人を引き付けられ、集まってくるだろう。そこに協力が生まれる。あなたがたの活動の成功を祈願する。良い動機、良い協力を与えること、それが大切なのだ。



<http://www.kyoto-seika.ac.jp/freedom>

京都精華大学 1999年度入試日程

公募制推薦入試では、人文学部・美術学部とも専願に限っていた出願資格を、99年度入試より他大学との併願を可とし、美術学部では評定平均を3.8以上から3.5以上へと変更しました(現役のみはそのままで)。その結果、昨年と比べて

美術学部では92%増、人文学部も20%増と両学部とも志願者の大幅な増加となりました。

また自由選抜は、偏差値やペーパーテストでは評価し得ない優れた個性や資質を、書類審査と自己表現を通じて総合的に評価しようとする人文

学部の特徴的な入試です。4回目を迎えた今年も、ボランティア活動、海外経験、演劇など様々な体験によって自分自身を成長させ、そのことをアピールできる受験生が集まりました。入学後もそれぞれの個性を生かしての活躍が期待されます。

人文学部					美術学部				
試験種別	出願期間	試験日	試験科目	試験会場	試験種別	出願期間	試験日	試験科目	試験会場
外国人留学生入試 (春期入学)	12月21日(月) 1月8日(金)	1月17日(日)	面接・小論文 (日本語を含む)	京都精華大学	外国人留学生入試	12月21日(月) 1月8日(金)	1月17日(日)	(日本語) ・実技・面接	京都精華大学
海外帰国生徒入試 (春期入学)	12月21日(月) 1月8日(金)	1月17日(日)	面接・小論文	京都精華大学	海外帰国生徒入試	12月21日(月) 1月8日(金)	1月17日(日)	小論文 ・実技・面接	京都精華大学
社会人入試 (春期入学)	12月21日(月) 1月8日(金)	1月17日(日)	面接・小論文	京都精華大学	社会人入試	12月21日(月) 1月8日(金)	1月17日(日)	実技・面接	京都精華大学
一般Ⅰ期入試	1月13日(水) 1月28日(木)	2月11日(水)	論文方式・ 2科目選択方式	京都・東京・金沢 名古屋・大阪 広島・高松・福岡	一般Ⅰ期入試	1月11日(月) 1月26日(火)	2月3日(水) 2月5日(金)	デッサン・ 専攻分野別実技	京都精華大学
一般Ⅱ期入試	2月15日(月) 3月1日(月)	3月8日(月)	論文方式・ 2科目選択方式	京都精華大学	一般Ⅱ期入試	2月10日(水) 2月25日(木)	3月4日(木) 3月5日(金)	英・国・数) 専攻分野別実技	京都精華大学

※願書請求は入試広報課まで フリーダイヤル 0120-075-017

木野通信第30号
1998年12月20日発行

京都精華大学

京都精華大学 情報館 文化情報課 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL 075-702-5343